

防災・減災教育の高度化に資する研究

最終更新日：2025年12月1日
社会科教育研究ユニット
講師
岩佐 佳哉

キーワード

・自然地理学、災害地理学、変動地形学、活断層、表層崩壊、GIS、防災教育

研究シーズの説明

- （私は、このような研究に取り組んでいます。）
- **ハザードの詳細な時空間分布の解明**: 2016年熊本地震を引き起こした布田川断層をはじめとする活断層や豪雨に伴う表層崩壊、2024年能登半島地震に伴う津波といった災害をもたらす現象としてのハザードの詳細な時空間分布を明らかにする研究を行っています。
 - **ハザードの簡便な調査方法の検証**: 低価格なモバイルレーザースキャナーやCLAS-GNSSといった計測機器を適用することで、災害直後などデータの迅速な取得が重要な場面における調査手法の検証に取り組んでいます。
 - **地域の災害履歴の解明**: 過去の災害の様子を示す地域の文化財・資料を収集・整理し、それらを地図化することで、地域ごとに異なる災害履歴・リスクの可視化を目指します。
 - これらの自然地理学的手法やこれまでの災害を通して得られた知見に基づいて、地域における災害の発生リスクを具体的に捉えることのできる防災・減災教育の手法および教材開発に取り組んでいます。



活断層の活動履歴調査（熊本）



能登半島地震に伴う津波



低価格モバイルレーザースキャナー

成果の応用可能性

- （私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）
- **災害の発生要因解明への貢献**: ハザードの詳細な時空間分布の調査により、災害の要因となるハザードの発生要因の解明に資する成果を提供します。
 - **自治体の防災・減災計画への貢献**: ハザードの詳細な時空間分布は、自治体が作成するハザードマップの基礎資料となりうるデータです。また、災害履歴を踏まえた地域・地区防災計画の策定支援につながります。
 - **防災・減災教育への貢献**: 人間と自然の相互依存関係を重視する自然地理学的な視点や地域の災害履歴を示す文化財や資料に基づいて、防災・減災教育および地域防災の実践をサポートします。
 - これらを通して、科学的根拠に基づく地域防災力の向上および持続可能な防災・減災社会の実現に寄与します。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 小・中・高校向け防災出前授業
- 地域コミュニティ向け防災講演
- 教員向け研修
- 放課後児童支援員資格認定研修
- 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
客員研究員としての災害対応支援

小学校における防災教育

など



地域向け防災講演

